

と お あ さ き お く
遠浅の記憶と
海辺の復活

作画 北神 諒

戦前の稲毛は
様々な人に愛される
場所でした

ミーン
ン
ミーン
ン

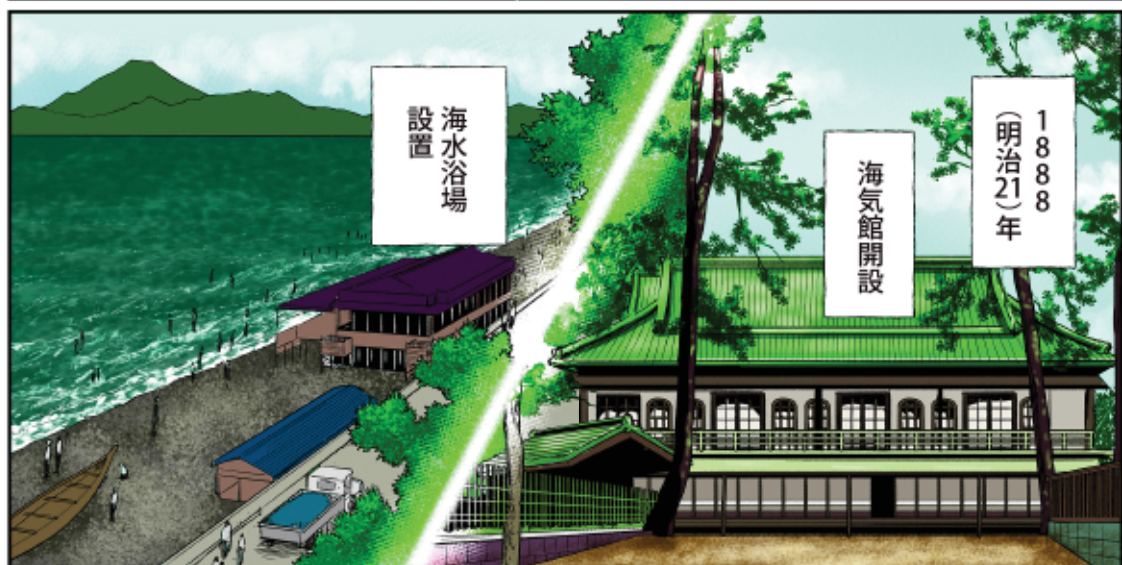


ほ……

海には海水浴や
潮干狩りの人々が
数多く――



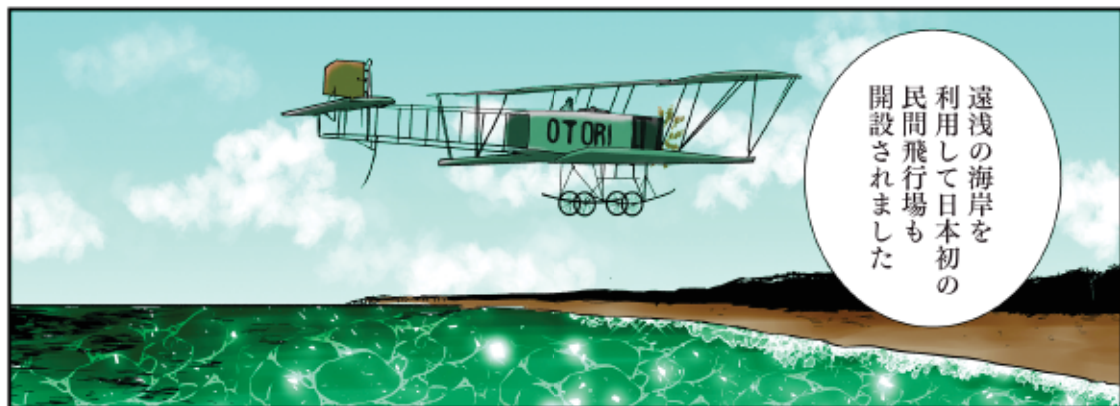
海気館にはかつて
森鷗外や島崎藤村
などの文豪が



海水浴場
設置

海気館開設

1888
(明治21)年



遠浅の海岸を
利用して日本初の
民間飛行場も
開設されました



「ワイン王」
神谷伝兵衛が別荘を
構えたりして……



別荘地としての
人気も高かった
稲毛には



松林の中に
別荘が点在した



お母さんが
生まれたのは
もっと後ののよ

でもお母さんが
子供の頃はもう
埋め立てられてて
わかんないって
言うから



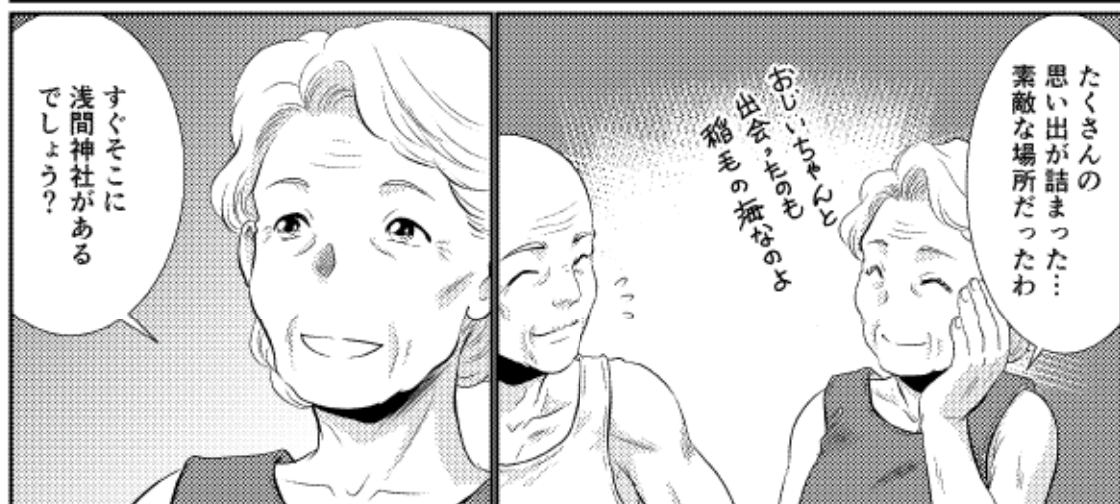
——って
この前授業で
聞いてね



それで
来てくれたのね

おっちゃんも
おばちゃんも
今いたかっただ
から!

埋め立て前の
稲毛ってそんなに
素敵だったの?



たくさんの
思い出が詰まった...
素敵な場所だったわ

おっちゃんも
おばちゃんも
稲毛の場所を
思い出した

すぐそこに
浅間神社がある
でしょう?



あの前の
道路の反対側は
ずーっと海だったの



おばあちゃんの家は
半農半漁^{はんのうはんりゆう}って言って
農業と漁業を半分ずつ
仕事にしていたの



アサリやハマグリ
なんかいくらでも
採れてね

潮が引いたら
貝を採って
岸の近くの
囲いに入れて



それを
必要なときに
取りにいったね

よく
アサリのふうかしを
作ってもらったわ



祖母から
伝え聞く
当時の話は
体験したことが
ないのにとても
懐かしく思えた

おばあちゃん
の子供の頃かめい



サチ!
ありがとなあ



お父ちゃん
お母ちゃん
おべんと
持ってきた!

幼い頃の祖母は
それは海が好き
だったという



手伝い?

これは自分の
小遣い稼ぎさ

へえ……!

風の強い日に海に行くと
細からちぎれたのりが
岸に上がってくる!

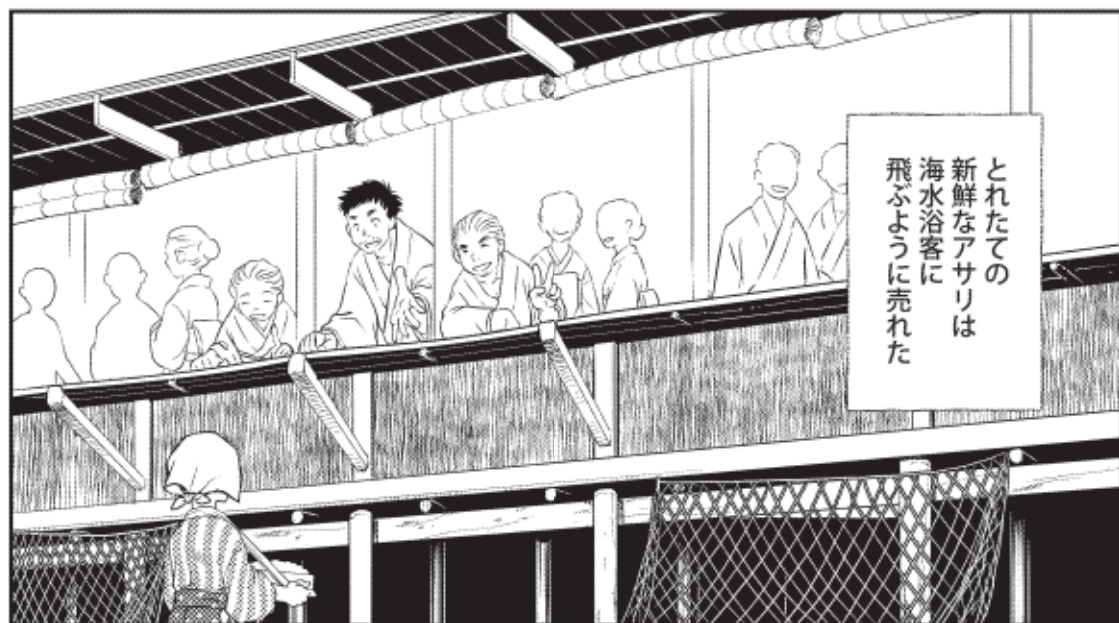


それは
幼なじみだった
祖父も同じで

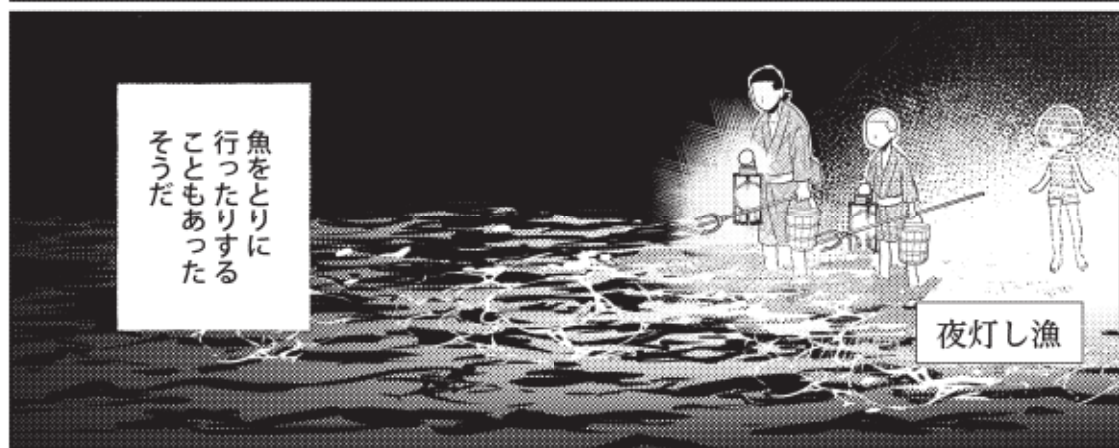
毎日のように
海に出ている
そうだ



うちの手伝い
大変だな!



とれたての
新鮮なアサリは
海水浴客に
飛ぶように売れた



魚をとり
行ったり
すること
もあつた
そう

夜灯し漁



ええ？
魚なんて
見えないよ

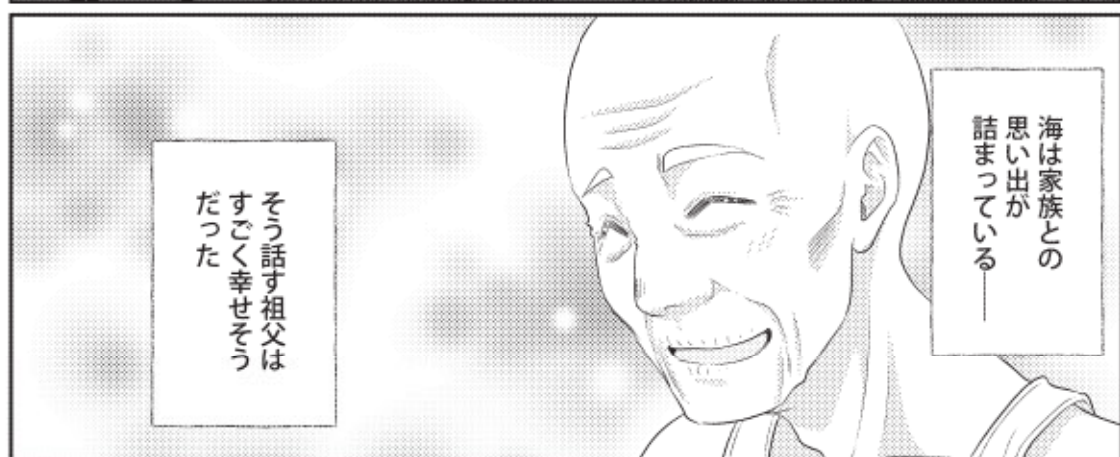
よおーく
照らして
ごらん

ほら
そこだよ



もう少し
時間をかければ
きっと上手く
なるさ

見えたけど
すぐいなく
なっちゃった



海は家族との
思い出が
詰まっている――

そう話す祖父は
すごく幸せそう
だった



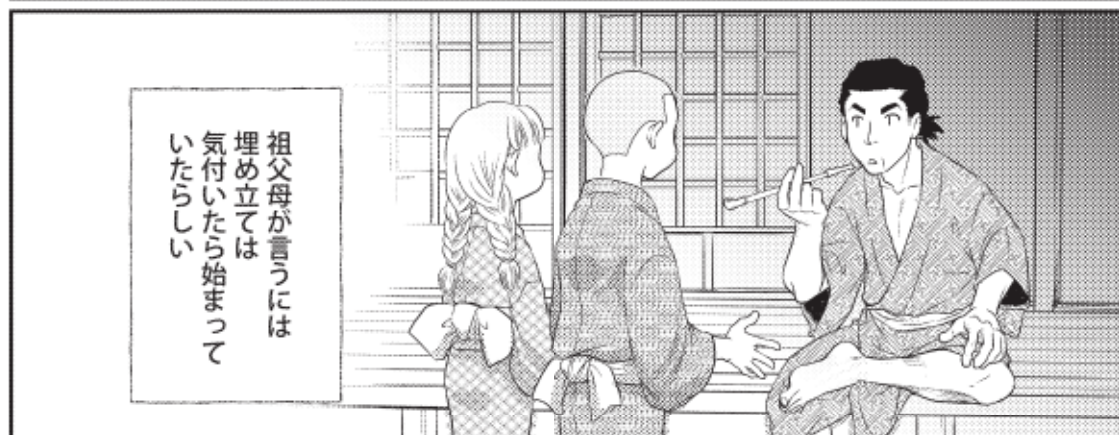
1961
(昭和36)年

海が鉄板で
囲われちゃった……



なんの工事
だろう？

うーん…
お父ちゃんに
聞いてみよか



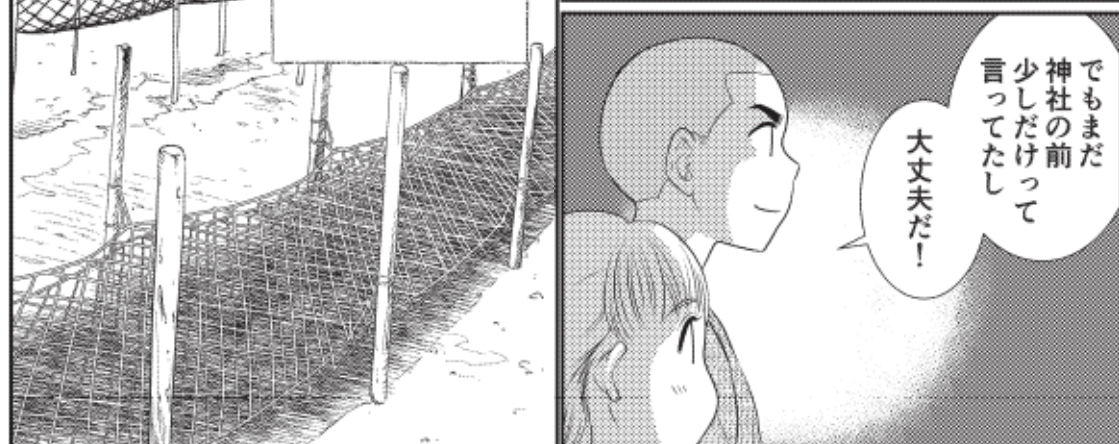
祖父母が言うには
埋め立ては
気付いたら始まって
いたらしい



埋め立てかあ

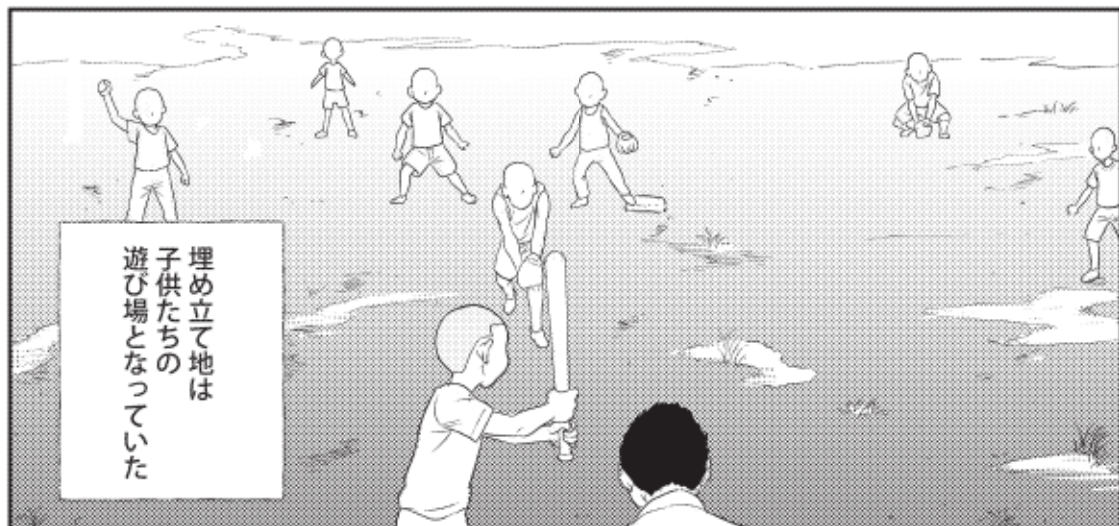
海…
なくなっちゃう
のかな

第一期の埋め立ては
浜から400m
ほどだったため
その後も変わらず
海で貝やのりが
採れたそうだ

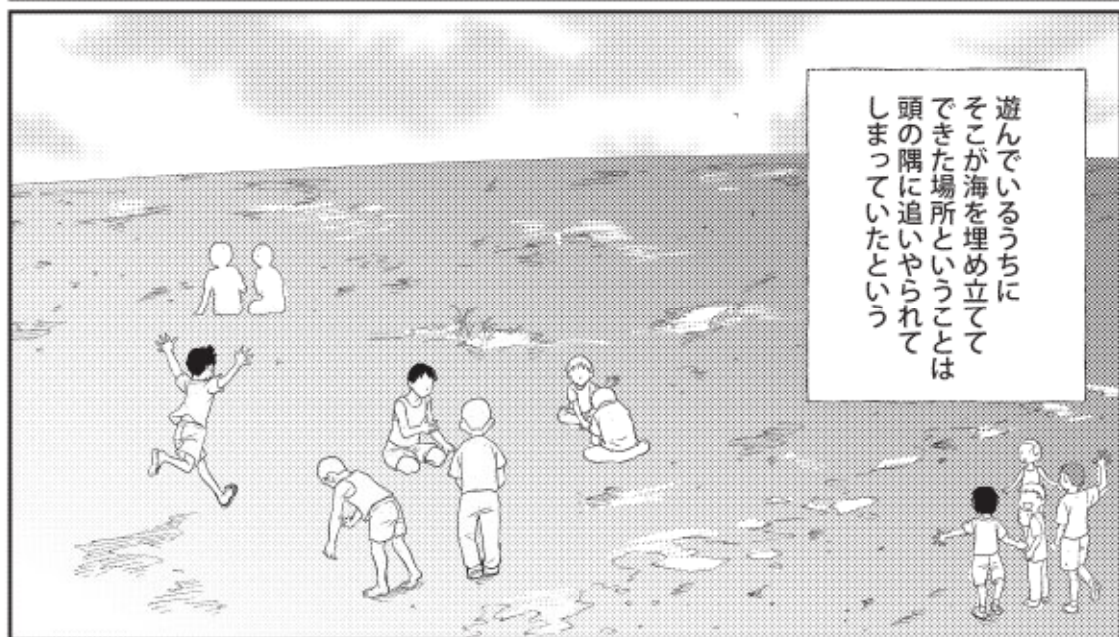


でもまだ
神社の前
少しだけって
言ってたし

大丈夫だ！



埋め立て地は
子供たちの
遊び場となっていた



遊んでいるうちに
そこが海を埋め立てて
できた場所というとは
頭の隅に追いやられて
しまっていたという



その後も
埋め立ては続き

月日は流れ――

1974
(昭和49)年

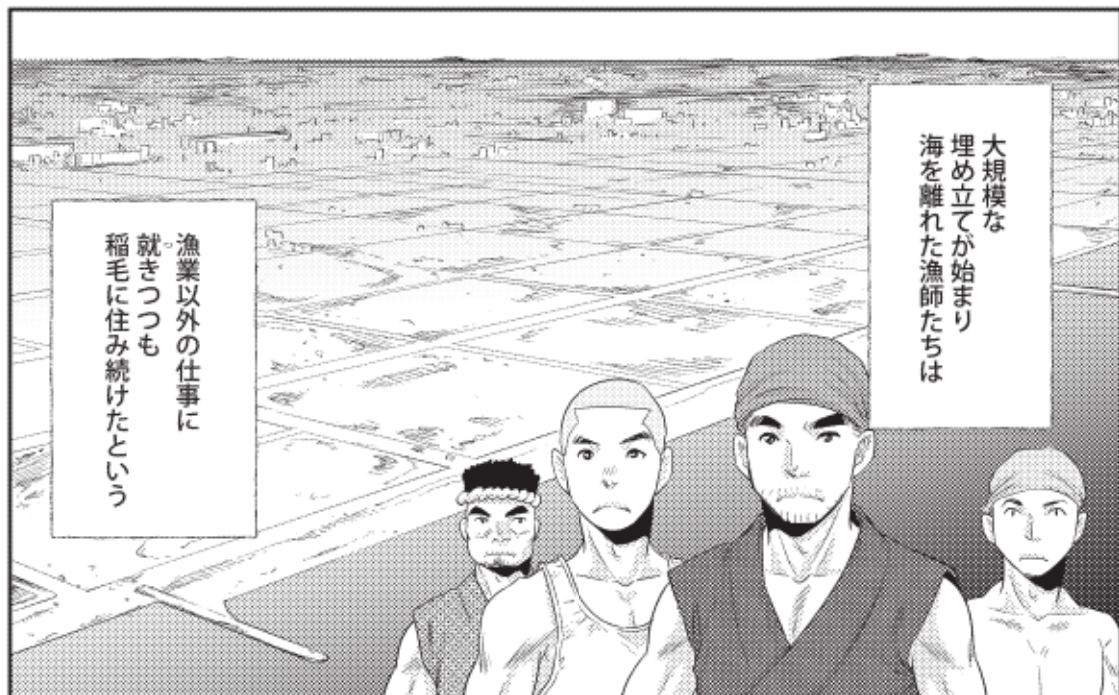
サチ
忘れ物は
ないかい？

大丈夫よ

もう働きに出て
ずいぶんたつのに
お母ちゃんは今
いつまでも
心配性ね

そりゃああなた
いつも帰りが
遅いから…

祖父母も就職し
まちの様子も大きく
変わっていった



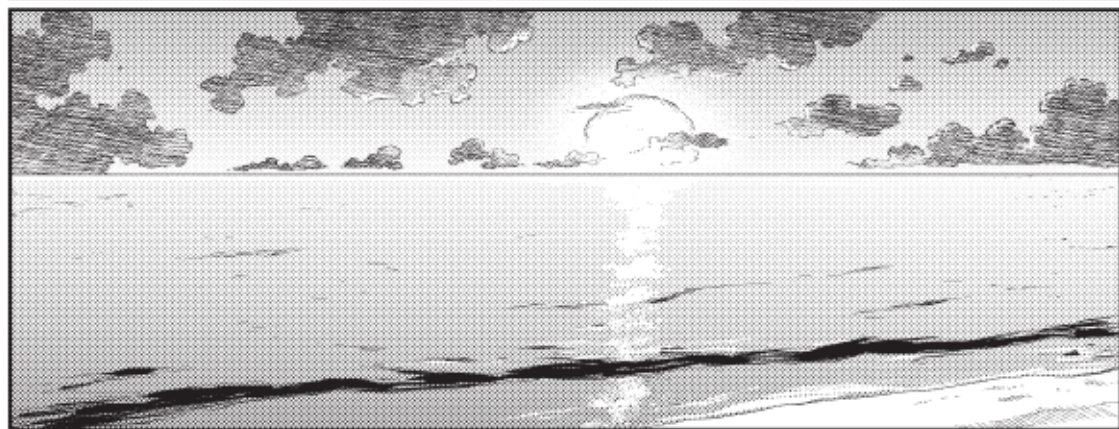
大規模な
埋め立てが始まり
海を離れた漁師たちは

漁業以外の仕事に
就きつつも
稲毛に住み続けたという



この頃になると
祖母の両親は
田んぼ仕事に専念
するようになっていた



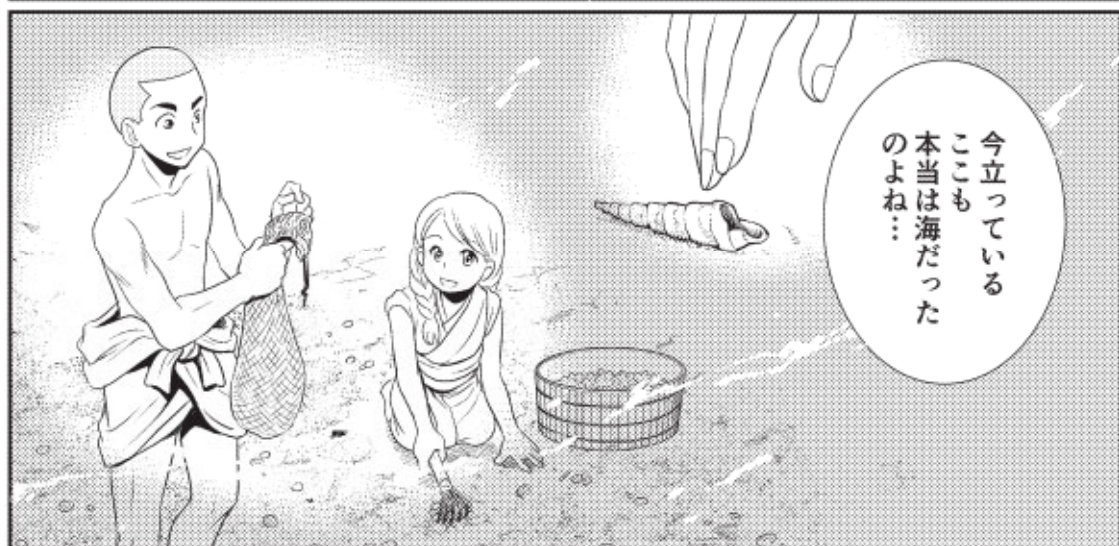




そっか…



昔は
舟じゃないと
来れなかった
場所だよ



今立っている
ここも
本当は海だった
のよね…



埋め立て地の
海って
こんな風にな
ったのね



忙しくて
つい忘れ
ちゃってた



私たちが
夢中になっていた
あの白砂青松の
海岸は…

もうどこにも
ないのね



…海は海さ

埋め立ての
海だって
夕日はこんなに
きれいじゃないか




この埋め立てが
完成したら…

ここに家が建って
お店ができて
木が植えられる
ようになって

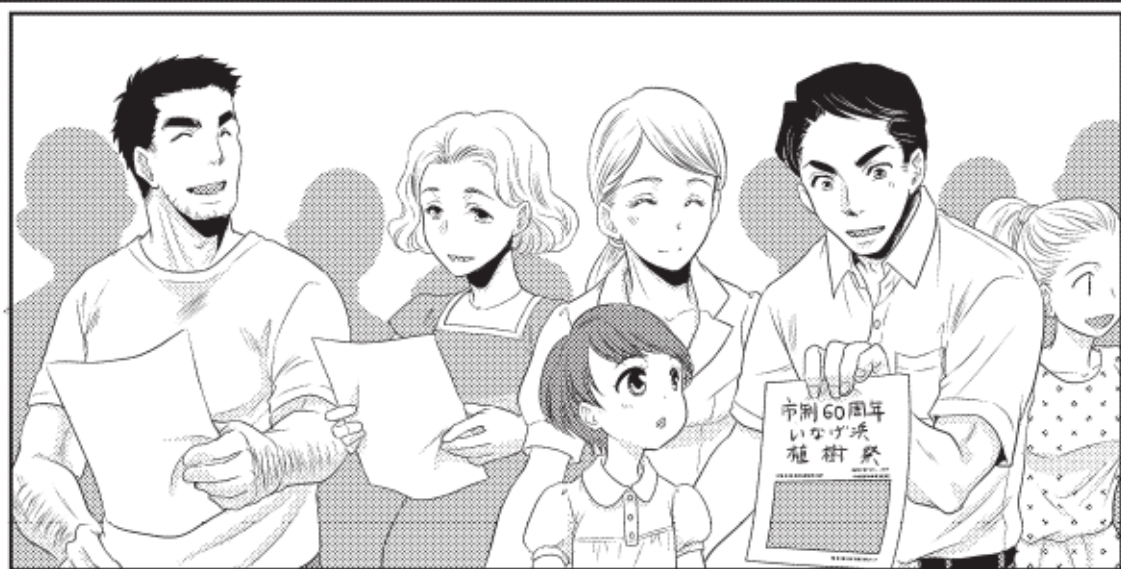
いつになるか
わからないけど
そんな日が
きっと来る

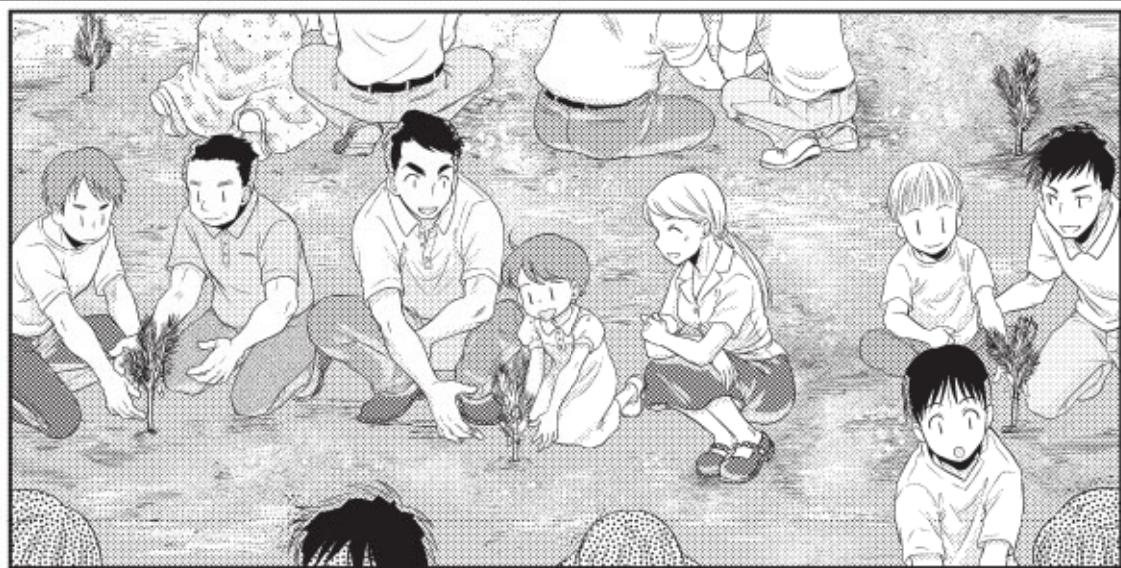
この埋め立てが
無駄じゃなかった
と思える日が



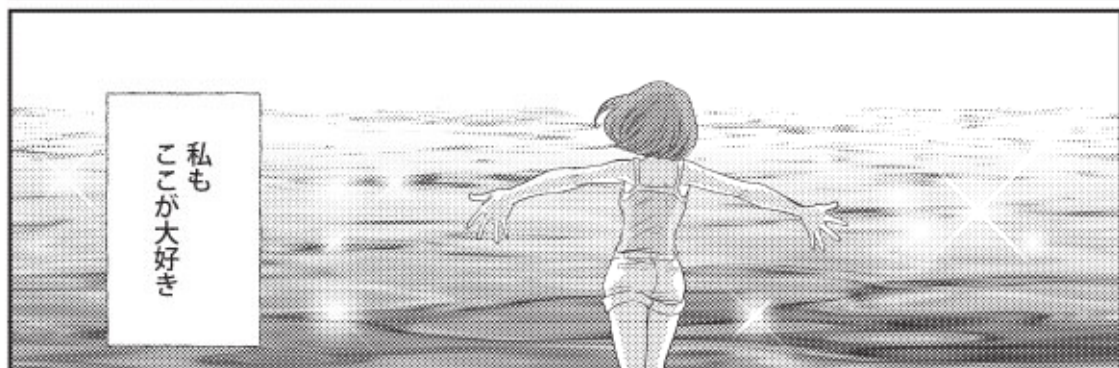
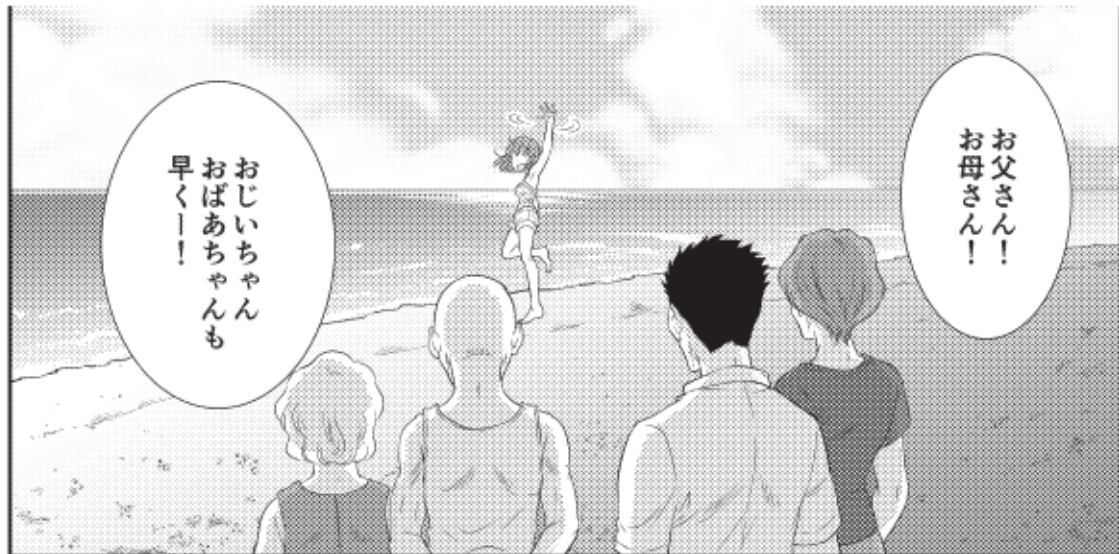


そして
1981(昭和56)年—
市制60周年を記念して
市民の寄付により
6万本の松の苗が
集まった市民の手によって
植樹された









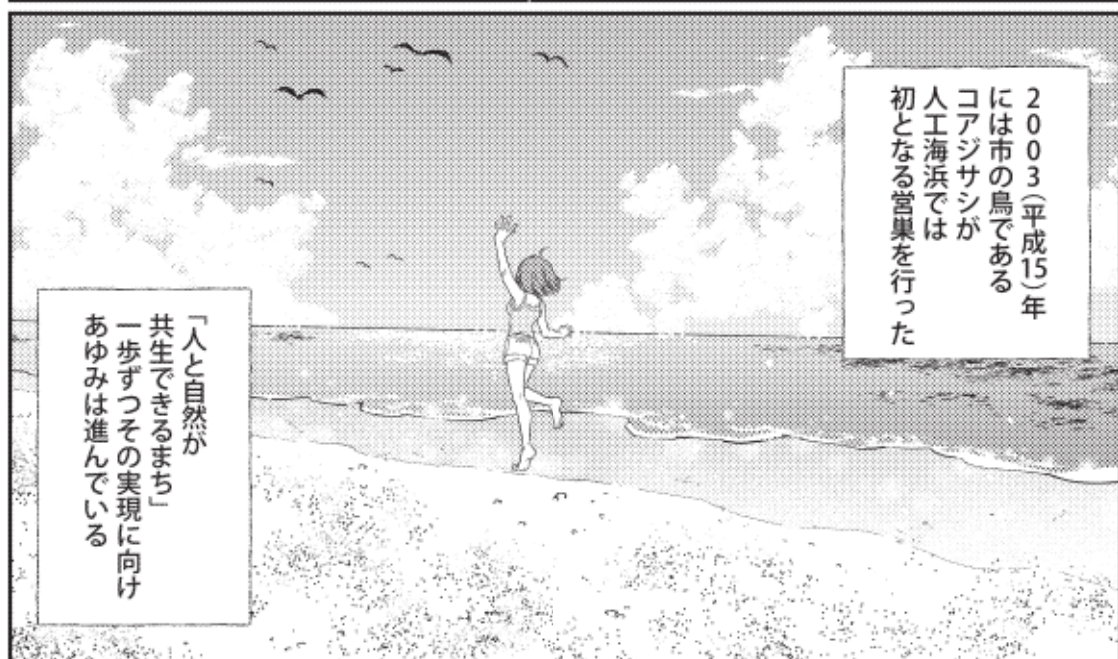


砂浜のおかげで
魚類や貝類が戻り
渡り鳥も飛んで
くるようになった



いなげの浜に続き
幕張の浜
検見川の浜も
順次完成し

3つの人工海浜は
日本最長4320mの
ウォーターフロント
となった



2003(平成15)年
には市の鳥である
コアジサシが
人工海浜では
初となる営巣を行った

「人と自然が
共生できるまち」
一歩ずつその実現に向け
あゆみは進んでいる



●貝をとり沖に向かう女性たち

はるか彼方の沖合まで干潟が続いていた。(黒砂付近) (写真提供：千葉県立中央博物館)



●海苔干しの風景

千葉の海岸ではよく見られた風景だが、写真の奥では港の工事が進んでいる。



●千葉名産ハマグリ

海岸通りにはハマグリやアサリを売る小さな露店が立ち並ぶ。

千葉市の遠浅の海では、昔からアサリやハマグリなどの貝類がとれましたが、大正期からは貝類の養殖が本格的に行われ、地域の人々にとってこれらの海産物は重要な生活の糧となっていました。

1894（明治27）年から開通していた総武鉄道に加えて、1921（大正10）年に京成電気鉄道が押上から千葉まで開通すると、東京方面から、幕張、稲毛、千葉の海岸には、海水浴や潮干狩りの観光客が数多く訪れました。

中でも稲毛は、戦後まで海岸の納涼台が残り、文人墨客も訪れる保養地や観光地として賑わいました。

貴重な海産物である海苔の養殖は千葉では明治期に始まり、戦後は幕張、稲毛、検見川地区に広まりました。

海苔干しの風景は冬の風物詩となっていました。

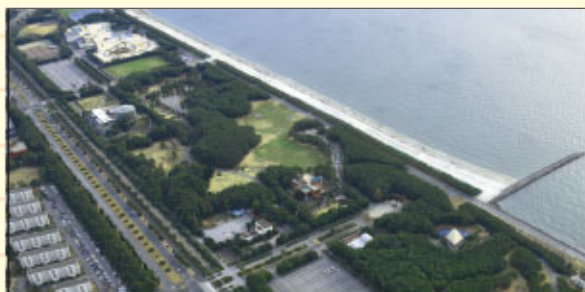


●臨海部の埋め立て

市域の8分の1にあたる約33.9km²の土地が臨海部に生まれた。

●稲毛海岸の埋め立て工事

囲ったエリアの水を抜きつつ、砂を入れていく。



●稲毛海浜公園

白砂で養浜した「いなげの浜」と再整備が進みつつある園内。2019年12月撮影。



●海洋公民館こじま (1966年開館)

埋め立てによって失われる海の記憶を継承する施設にしたいと32年間活用された。

こうして1976年、現在の場所に日本初の人工海浜「いなげの浜」がオープンしました。整備から半世紀が経過し、魅力ある都市型ビーチを目指して、白砂による養浜や官民連携による施設の整備・運営管理などがはじまっています。

しかし、市民のためにどうにかして砂浜を取り戻すことができないかと、公園整備工事の最中の1974年に千葉市養浜計画がまとまりました。

1961(昭和36)年から稲毛海岸付近で埋め立てが始まります。稲毛浅間神社前の部分的な埋め立てではじまった事業は年々拡大し、1980年には、以前の海岸線から2キロほどの埋め立てが完了、白砂青松とつたわれた浜はその姿を消しました。